

Educational Challenge

新しい可能性に挑戦！

2023年度 最終成果報告

Educational Challenge

2023年度 最終成果発表会
13:00~



Educational Challenge 2023最終成果報告会

Edcamp tane
in Shinshu

「問い」はたくさんあるのに
「正解」がないのが教育
だからこそ 日本人だけの 日本人だけの
小さな気づきを集めてほしい
これから「教育」を考える大学生と

信州で若者だけのEdcampをつくりたい 活動のお

NO IMAGE

新たなご支援をいただきました。

Educational Challenge

2023年度 中間発表会



Educational Challenge 中間発表会

NO IMAGE

ANGELUXアカデミー様にご支援いただきま



※本プロジェクトは、下記の団体・企業からご支援を
いただき実施しております。（令和6年2月現在）

- ・(公社)信濃教育会 様
- ・(公財)栗田病院 様
- ・(株)礎建装 様
- ・(株)丸富士 様
- ・(株)徳永電機 様
- ・(株)新日本設計 様
- ・(株)黒船 様
- ・岡学園トータルデザインアカデミー 様
- ・長野県小学校校長会 様
- ・長野県中学校校長会 様
- ・ANGELUXアカデミー 様
- ・徳田節子 様

Educational Challenge

多数のご支援ありがとうございます

Educational Challenge

2023年度 二次審査会 14:00~



発表7分・質疑7分
質疑は審査員優先
23年の採択プロジェクトが決定しました

学生より本年度ご支援の御礼



23-01 学生主体で学ぶ！令和の日本型教育に求められる教員の資質・能力（代表 若月陸央）

この度は本事業の実施にあたり、ご支援をいただき誠にありがとうございました。ご支援をいただき、令和の日本型学校教育を实践したい学生ならではの学びを推進することができました。それぞれの分野について学ぶ学生や現場に出ている若手の先生と一緒に授業を参観し、お話を聞けることは大変勉強になりました。また、それぞれの立場を持つ学生はその場で授業の参観が叶わない学生もいましたが、ご支援いただき購入した物品を活用して映像に残すことで拝聴することが可能となりました。今後も今年度の成果を踏まえて学び続けていきたいと思っております。改めてご支援いただいた皆様に、厚く御礼申し上げます。

23-02 信州で若者だけのEdcampをつくりたい(代表 田玉千彩希)

この度は、私達の活動にご支援いただき誠にありがとうございました。支援を頂いたおかげで、今年初めてEdcamp tane in Shinshuを実施することが出来ました。Edcamp tane in Shinshuを実施したことによって、将来教員になることを目指す学生と実際に教壇に立つ先生方、社会人の方との交流の場を作ることが出来ました。参加者の皆様の中には繰り返し参加して下さる方がいるなど、価値のある活動になっているのではないかと思います。また、運営側としても社会人や教員の皆様など、普段一緒に活動することの無い立場の方々と一緒に企画運営をしていくという貴重な経験をするということにも繋がりました。改めて、この度はご支援のほどありがとうございました。

23-03 BIGPEC(代表 坂田大昌)

この度はご支援を頂き大変ありがとうございました。ご支援を頂いたおかげで無事BIGPECを開催することができました。当日の子どもの感想は「隣の子と相談をして仲良くなれたのでとてもうれしかった。百人一首がとても楽しかった。今度も来たい!!」といった

ものが見られ、開催できて心から良かったと思います。好評だったため、来年度の開催に向けて計画を立てている段階です。今年度の課題を活かして来年度の開催にむけてより一層頑張りたいと思います。この度はありがとうございました。

23-04 蒔絵と書道の出会い（代表 中島実優）

この度は、本事業を採択していただき、また多大なるご支援を賜り、有難うございました。皆様にお力添えいただいたおかげで、蒔絵と書道を融合させた作品の制作を通して、摺り漆や蒔絵に関する知識および技能を習得し、さらに伝統文化・芸術を実際に体験する教育的意義を実感することができました。また、学生書道展等を通して、本事業について多くの方に興味関心を持っていただき、来年度以降の活動に弾みをつけることができました。来年度以降は、長野県の学校と連携・協力し、児童生徒と共同制作することによって、次世代への伝統文化・芸術の保存・継承を目標としており、現在具体的な活動の内容・計画を練っております。本年度の学びを生かし、来年度以降の活動が充実したものとなるよう、より一層研鑽を積んでまいります。

ご支援いただいた皆様に、改めて厚く御礼申し上げます。

23-05 信濃小中学校メイカースペースプロジェクト（代表 西澤楓真）

この度は、信濃小中学校メイカースペースプロジェクトへのご支援を賜り、深く感謝申し上げます。皆様の温かいご支援により、私たちのメイカースペースで、教職員と子どもたちが様々な活動に挑戦することができました。ご支援いただいたカッティングマシンは、季節の掲示やペーパークラフト、ペーパーアクセサリなどの利用に使われました。今後ともメイカースペースが創造的なアイデアを形にし、共に何かを作り上げる場として学校や子どもたちにとって、より良いものとなるように活動を続けてまいります。改めてご支援いただいた皆様に、厚く御礼申し上げます。

23-06 EduMed（代表 太田優里奈）

この度は、活動へのご支援を賜り、心より御礼申し上げます。私たちの活動は、規模の大きいものではありません。しかし、子どもたち・学生たちの視野を広げ、それぞれが共生について考え、今後の人生を生きていくために非常に重要な活動だと考えています。医療は日々発達しており、疾患を抱えながらも生きていける子どもたちは増えています。今後も入院治療という大きな経験をした子どもたちが、社会の中で周りを頼りながら自立して生きていく力をつけるために、私たちに何ができるのかを考えながら活動を行ってまいります。重ねてお礼申し上げます。今後とも温かく見守っていただけますと幸いです。何卒宜しく願いいたします。

23-07 新時代のものづくり技術をすべての人に広げる（代表 田中遼太）

この度はご支援いただきまして誠にありがとうございました。ご支援いただいたおかげで、私たちは子ども達に対して工作やクリエイティブな活動を通じてものづくりの楽しさを伝えることができました。子ども達が手を使い、作品を作り出す姿は、何よりも貴重な体験でした。その過程での笑顔や驚きの表情を見ることができたことは、私たちにとって大きな達成感がありました。子ども達がものづくりを通じて学び、成長する姿を見ることができたことに心から感謝いたします。今後も、私たちは子ども達のものづくり体験のための活動に全力を尽くしてまいります。この度ご支援いただいた皆様に、厚く御礼申し上げます。

トップページ > お知らせ > 「Educational Challenge 2023」最終成果発表会を開催

お知らせ

2024/02/15

お知らせ

「Educational Challenge 2023」最終成果発表会を開催



令和6年2月14日、「Educational Challenge 2023」最終成果発表会を開催しました。

「Educational Challenge」は、2022年度から始まった、学生らの教育についての自主的な企画や事業のプロジェクトを支援する取組で、2年目となる今年度は審査会を経て7件のプロジェクトが採択され、活動に取り組んできました。冒頭の村松学部長の挨拶の後、7件それぞれの代表学生が事業成果について発表を行いました。発表では、取組成果だけでなく当初計画時には想定しなかった点といった課題についても報告がありました。また、令和5年8月に行われた中間発表会後のプロジェクト交流会での交流を経て、複数プロジェクトがコラボレーションしたイベントを開催する等、新たな方向の取組として展開した様子が報告されました。

各プロジェクト発表後には学部教員等から様々な質問やアドバイスがあり、最後に本取組にご協力いただいた公益社団法人信濃教育会の武田会長から「先生が探求しないと子どもが探求的になるはずがない。今回のチャレンジは失敗したことも含めて、今後の教員生活に生かされる」と講評をいただきました。

また、成果発表後にはプロジェクト交流会が開催され、プロジェクト間の学生が活発な意見交換を行っていました。

「Educational Challenge2023」は、以下の7件が活動しました。（順不同）

- ・学生主体で学ぶ！令和の日本型教育に求められる教員の資質・能力
- ・信州で若者だけのEdcampをつくりたい
- ・BIGPEC
- ・蒔絵と書道の出会い
- ・信濃小中学校メーカースペースプロジェクト
- ・EduMed
- ・新時代のものづくり技術をすべての人に広げる

※本プロジェクトは、下記の団体・企業からご支援をいただき実施しております。（令和6年2月現在）

お知らせ

[お知らせ一覧](#)

記事一覧

[お知らせ](#)[入試情報](#)[イベント情報](#)[受賞](#)[大学院](#)[教員公募](#)[総合人文](#)[教職大学院](#)

年別に見る

- ・(公社)信濃教育会
- ・(公財)栗田病院
- ・(株)礎建装
- ・(株)丸富士
- ・(株)徳永電機
- ・(株)新日本設計
- ・(株)黒船
- ・岡学園トータルデザインアカデミー
- ・長野県小学校校長会
- ・長野県中学校校長会
- ・ANGELUXアカデミー
- ・徳田節子様

プロジェクトの詳細は「EducationalChallenge」ホームページで公開しています。

http://fablab-nagano.org/educational_challenge/

来年度も引き続き「Educational Challenge 2024」を実施予定です。



[前へ](#)

[一覧にもどる](#)

[次へ](#)

[個人情報の保護](#)

[情報公開のご案内](#)

[サイトポリシー](#)

[↑ ページの先頭へもどる](#)

学ぶ - 学部紹介・入試

- 学部紹介
- 教育の特色
- 学部コース案内
- 入試・キャンパス見学
- 進路・資格
- 教員紹介

知る - 学部データ

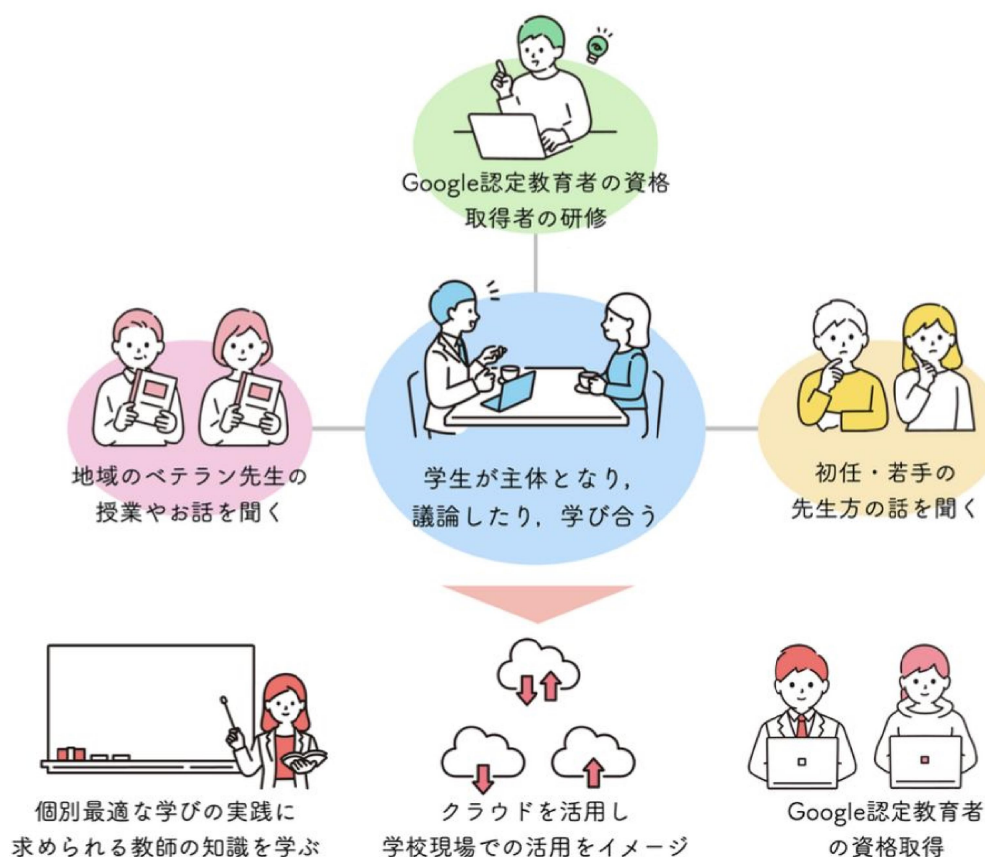
- 附属学校園・施設
- 公開資料
- 関連組織
- 各種証明書交付手続き
- アーカイブ
- 業務・広報ポリシー
- 学生・教職員向け情報

学生主体で学ぶ！令和の日本型教育に 求められる教員の資質・能力

発表者：南條 優
代 表：若月陸央
顧 問：佐藤和紀先生

01

全体計画



02

- 本プロジェクトの背景
- 活動内容
- 今後の計画

- **本プロジェクトの背景・目的**
- 活動内容
- 今後の計画

主体的な学び

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる

対話的な学び

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める

深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見い出して解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう

主体的・対話的で深い学び

学習指導要領 総則 第3 教育課程の実施と学習評価

学習指導要領 総則 第4 児童(生徒)の発達の支援

学習内容の確実な定着

学習内容の理解を深め、広げる

自らの学習を調整

自らの学習を調整

指導の個別化

学習の個性化

個別最適な学び (教師視点では「個に応じた指導」)

修得主義 各々の学習状況に応じて学習内容を提供・一定の期間における各々の学習の状況の考え方を生かす

異なる考え方が組み合わせよりよい学びを生み出す



多様な他者と協働

一人一人のよい点・可能性

クラスメイト

異学年の子供

他校の子供

地域の人

これからの学校には……一人一人の児童(生徒)が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

全体

教師

個別児童

協働児童

南條優, 金松萌々花, 若月陸央, 吉田康祐, 佐藤和紀 (2023) 学習の個性化に取り組もうとしている児童が学習の個性化をイメージするためのマルチアングル授業映像を活用した際の評価. 日本教育工学会研究報告集, 2023(2): 214-221

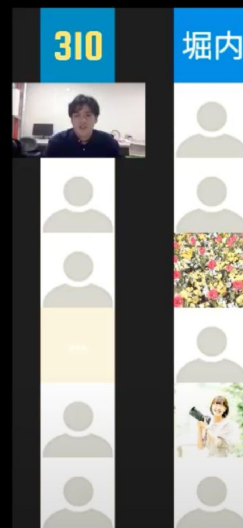
4. 事前に受け付けた質問に対して

Google認定教育者の試験は2構成それぞれ
オンラインか対面か、どちらでの試験でしょうか？

選択問題、実技問題どちらもオンラインでの試験です。

「3年間授業でGoogleのツールを使いこなすスキルがあることを証明できます」とのことですが、3年経ったら再度認定を取得し直す必要がありますか？

3年後、再度試験を受ける必要があります。



2021年度に学部生を対象に説明会を実施

Rio WAKATSUKI

SHINSHU UNIVERSITY Faculty of Education

→多くの学生がGoogle認定教育者の資格を取得

学生が主体(学生らしく)となって
教員になった時のために学ぶ機会を作ることの大切さ

07

プロジェクトの目的

学生が主体となり、様々な人の意見を取り入れながら、令和の日本型学校教育で求められる**授業**や、基盤となる**学級経営**などに関して議論し、その結果として教師に求められる**資質や能力を育む**ことのできる場所を作り出すこと。

08

- 本プロジェクトの背景
- **活動内容**
- 今後の計画

活動の計画

学生が**ICTの活用法**や**学級経営**について学び、**現場の教員と共有**しながら、フィードバックなどを得るという形で、教育現場で直面する可能性のある課題に対する理解を深め、Google認定教育者の資格をはじめ、**具体的な**スキルや知識を身につける。



活動内容



実際の授業を参観する中で考える

- ・個別最適な学びとは？
- ・子どもたちはどのように学んでいるのか？
- ・教師は何をしているのか？

011

活動内容



授業後には実際に話を聞く

- ・何を意識して授業を行っているのか
- ・日頃の学級経営で意識していることは何か

012



個別最適な学びを実践する教師に質問する

- ・学生それぞれの研究分野や興味に合わせた内容
- ・来年度、教職現場に出ることを意識した内容

013

現在の活動

【授業の様子】

- ・ 児童が学習課題や学習時間などを選択して学習を進める

教師が前方での指導・支援のみではない



Educational Challengeで購入した

360度カメラを活用して授業を撮影

- ・ 教室全体や教師の動き、それぞれの児童の動きなどが確認可能
- ・ 自分で見たい児童、場面を選び視聴が可能

014

現在の活動

- 国語前半

https://youtu.be/_TKNI6smzxE

- 国語後半

<https://youtu.be/j-I-NBQzhxI>

- 算数前半(シングルレンズ)

<https://youtu.be/xH0E0yYwOCQ>

- 算数後半

<https://youtu.be/jPFoaQZtJGQ>

購入させていただいた機材の活用(クラウド化)

- ・何度も視聴が可能
- ・現地にいけない学生や教員も視聴が可能

015

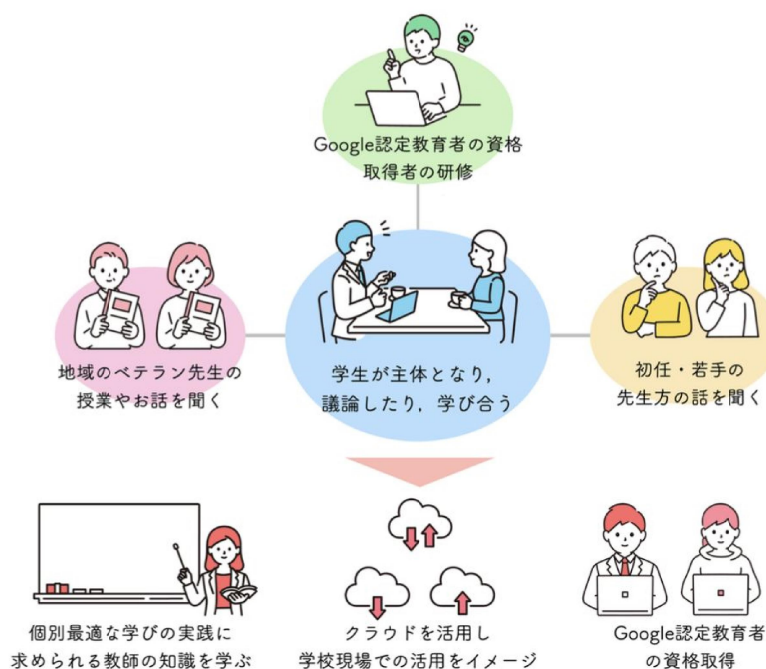
発表の流れ

- 本プロジェクトの背景
- 活動内容
- **今後の計画**

016

- **学生を対象にしたGoogle認定教育者の説明会**
 - 約7割の自治体がGoogleのアカウント
 - 重要なスキルを習得するための第一歩
 - Google認定教育者の資格取得に関するセミナーを開催
- **学生・教員を対象にしたFigJamの体験会**
 - 多くの学校現場で活用されてきた「Jamboard」
 - 2024年12月に廃止されることが決定
 - その代用として挙げられるFigJamツールの体験会

御礼と今後の課題



- 現場に出る前の学生だからこそ学べることを大切にしながら活動
 - 今回の活動で学んだことを元に現場でも学び続けていきたい
- ◎ご支援をいただいたことに改めて感謝申し上げます



Edcamp tane
in Shinshu

信州で 若者だけの Edcampをつくりたい

～最終成果発表会～

田玉 千彩希 高津 慎太郎 船崎 佑真



Edcamp tane
in Shinshu

概要

「教育」という同じテーマに関心がある人達が集い
気軽に話し合い、交流する

アンカンファレンスという手法を用いて
参加者にその場でテーマを考えてもらう

コンセプト

「問い」はたくさんあるのに

「正解」がないのは

教育

だからこそ

じぶんなりの じぶんだけの

小さな気づきを 集めてほしい

これから「教育」を考える 大学生と

いま「教育」を考えている 先生とが

まざって話して考えて

小さい小さい種を みつけてほしい

1年の流れ

第1回

6月

第2回

9月

第3回

12月

第四回

3月

(予定)



採択

中間
報告会

最終
報告会

第3回の課題から改善した点

▶ 広報について

- ▶ 教育学部掲示板にチラシを掲示
- ▶ 学生SNS広報部の方の協力
- ▶ 他大学の学生への広報



▶ テーマ設定について

- ▶ 第3回はテーマを設定せずに開催
- 話すテーマは多様化した

▶ 参加者との連絡について

- ▶ Edcampのアドレスからメールを送れるように整備

参加者の声

「共通点や関連を見出して話せた」

「教える・教えてもらったりするのではなく、
日頃考えていることを呟くように話せたのが良かった」

「学生、社会人など様々な人と関わるきっかけになった」

時期的にも参加者が少なかった

各テーブルで話したこと、模造紙に
書いたことを共有する時間を作る

会の最後にEdcamp taneに参加して
見つけた種(発見や想い)を共有する機会を設けなかった

課題

全体の成果

- ▶ 学生と教員と社会人の方が交流する機会を作ることができた。
- ▶ 大学の授業ではあまり触れることのない教育テーマについて共有することができた。
ex)給食指導について、子どもの読書について
- ▶ 運営側として、異なる立場の方々とコミュニケーションをとりながら、マネジメントを行う経験を得た。

今後の方針


- ▶ 3月16日に今年度最後の第4回Edcamp tane in Shinshuの開催を予定。
- ▶ 来年度以降も、学生と教員の方が交流する機会を作っていきたい。

ご支援いただいたお金の使用用途

- ▶ ホームページ、ロゴの作成料
- ▶ 第3回、第4回(予定)の会場使用料
- ▶ 模造紙や付箋などの消耗品

ご清聴ありがとうございました！

ご支援のおかげで有意義な活動を行うことが出来ました。
本当にありがとうございました。



蒔絵と書道の出会い

「チーム『書』どう？」

本日の発表の流れ

- 1、はじめに
- 2、ちきりや手塚万右衛門商店さんの訪問
- 3、摺り漆作品の制作
- 4、蒔絵作品の制作
- 5、おわりに

1、はじめに

蒔絵と書道の出会い
チーム「『書』どう？」

背景
書道を学ぶ中で、伝統的な文化や芸術に興味を持った。また、長野県には多くの「伝統工芸品」があることを知り、「木曾漆器」に関心を持った。

↓

①「蒔絵」を教材として扱った高校書道の授業実践をもとに、**蒔絵と書道を融合させた作品を制作したい。**

②作品制作の成果を、学校教育や生涯教育の発展への寄与、地域貢献に生かしたい。

目的

①書道と蒔絵との融合を図った作品制作を行う。

②①の成果を多くの人に発信することで、長野県の伝統文化・芸術の保存や継承に貢献する。

全体の事業計画

本年度

- ・蒔絵と書道を融合させた作品を制作する。
- ・書道、蒔絵、漆器等伝統文化や芸術について専門知を深める。
- ・2月に行われる学生書道展を通して、信州大学の学生及び教職員の皆様、地域の方々に成果を発表する。

↓

来年度以降

- ・長野県の小中学校や高等学校と連携し、蒔絵と書道を融合させた作品を児童生徒と共同制作する。
- ・学校公開日等を利用し、保護者や地域の方に作品制作の成果を発表する。

本年度の活動計画

5月2日：ちきりや手塚万右衛門商店訪問

6～9月：作品制作のための準備と予行練習

10～11月：蒔絵と書道を融合させた作品制作3回の講師講座

12月～1月：学生書道展の準備

2月：学生書道展の開催

3月：プロジェクトの振り返り
次年度以降の実施計画作成

作品制作案
(蒔絵師 手塚希望さんの作品 5月2日 ちきりや手塚万右衛門商店にて)

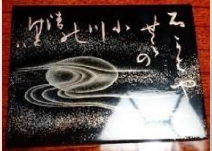



図1 2023(R5)年6月14日「Educational Challenge」二次選考 発表用Power Pointより
(赤枠：本年度の事業目標 青枠：本年度の活動内容)

1、はじめに

- 本年度の活動報告
 - ちきりや手塚万右衛門商店さんへの訪問
 - 摺り漆作品の制作
 - 蒔絵作品の制作
 - 作品制作を通して学んだこと
- 本年度の活動の成果
- 来年度の活動の展望

2、ちきりや手塚万右衛門商店さんへの訪問

【学んだこと・感じたこと】

○漆とは何か…？

- ・漆の木に傷をつけた時に、そこから分泌される樹液が用いられる。
- ※国産の漆は非常に貴重で高価なものになっている。



@OSAME重
(chikiriya.co.jp)

○摺り漆と塗り漆

- ・摺り漆は、木目の美しさを生かした作品で、普段使いに適している。（↑左図）
- 塗り漆は、着色をしたり蒔絵を施したりする作品で、比較的高価である。（↑右図）

○木曾漆器の特徴

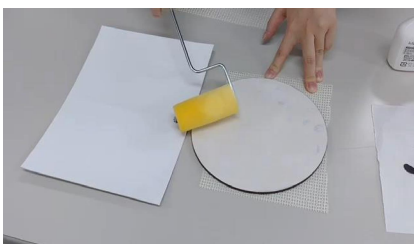
- ・木曾の良質な木を使用しており、普段使いに適したものが多い。生漆を繰り返し擦り込みしみ込ませることで、木目の美しさを生かした技法が特徴的（木曾春慶塗り）。
- ※輪島塗→粉を蒔いたり銀箔を貼ったりすることで、豪華絢爛な美しさを生み出す。

○蒔絵作品

- ・漆で描いた絵や文様の上に、金色や銀色の金属粉を蒔いて描く装飾。



3、摺り漆作品の制作



【学んだこと・感じたこと】

○同じ作品を制作したにも関わらず、1つ1つ色の出方や濃さが違った。

- ・生漆を塗る量やスピード、季節による乾燥の様子、制作過程で噴射するスプレーのむら等、様々な要因が1つ1つの作品に色味の違いを生じさせる。

→自分ならではの作品が完成し、制作した作品に愛着が湧いた。

○摺り漆の工程を2回・3回と重ねるごとに、作品のツヤ感が増していき、さらに美しい見た目となった。

○生漆を手早くムラ無く塗る作業が初めは難しく感じたが、回数を重ねるごとに、手早くきれいに塗ることができるようになった。

4、蒔絵作品の制作



【学んだこと・感じたこと】

○書道で使用している筆とは扱いの異なる
現の幅に美しさを感じた。

→「蒔絵筆」は一方向にしか動かすこと

○「磨き蒔絵」という手法を学んだ。

○線の太さや、色粉の色、艶の具合など、一人一人の個性あふれる作品を制作することができた。

やっぱりプロの人ってすごい！！

5、おわりに

・本年度の活動の成果

- ・摺り漆や蒔絵に関する知識および技能の習得
- ・伝統的な文化・芸術を実際に体験する重要性
- ・外部への発信

→学生書道展、教育学部公式SNS (X、Instagram、YouTube)、
長野市民新聞社様、長野ケーブルテレビ様

学部図書館での開催ですが、
多くの一般来場者様にも
楽しんでいただいております！

5、おわりに

- 来年度の活動の展望

- 高遠高校芸術コース書道科の生徒と共同制作

2023年12月5日（火）松村先生とZOOMミーティング

地域密着型の学校。地域貢献を重視！

- 現時点の案：

1学期 事前学習 木曾漆器や蒔絵について知る

→手塚さんの工房見学 or 特別授業（オンラインも可）

2学期（9～10月）作品制作

→本年度制作した作品

成果発表 伊那文化会館にて開催の展覧会で展示

※今後、活動の内容および計画をより具体化

5、おわりに

- 令和五年度 学生書道展

図書館1Fリフレッシュコーナー

2F展示スペース

15日（木）まで開催

本プロジェクトの発表パネル、
制作した作品の展示




漆塗り加工を施した書道作品を紹介する学生

2024/2/9放送「INC長野ニュース」より

2024/2/10「長野市民新聞」より

皆様のご来場をお待ちしております！



ご清聴ありがとうございました

Educational Challenge

BIGPEC 最終活動報告

TOSS 信州大学 坂田大昌

目次

- 01 - 活動概要
 - 02 - 当日までに行ったこと
 - 03 - 当日の様子
 - 04 - 今後について
-
-

内容:長野市内の小学生を集め、跳び箱、理科実験
英会話などの体験型講座に参加してもらう

目的

子どもにとって:講座の中で成功体験をし、学びの面白さを実感することで、成長する

大学生にとって:集団の前に立つ経験、企画実行をする経験をし、子どもの成長を目の前で見えて大きな感動を得る

日時

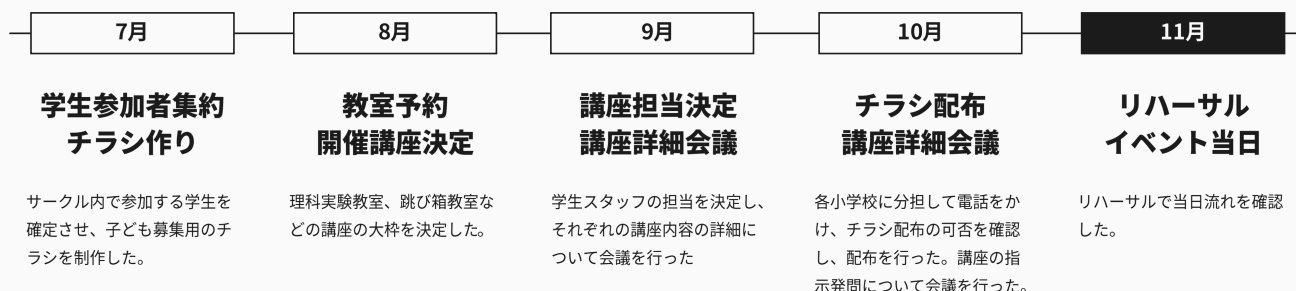
2023年11月11日(土) 13:30～16:10

場所

信州大学教育学部 泉会館2階、第一体育館、N棟教室

02

当日までに行ったこと



03

当日の様子

13:30～13:35 はじめの会

13:35～14:25 第1ステージ【跳び箱・スポーツ・脳トレ】

14:35～15:00 第2ステージ【工作(低/高*)・理科実験(低/高)】

15:10～15:35 第3ステージ【百人一首(低/高)・英会話(低/高)】

15:45～16:00 第4ステージ【学生の授業(5分)・現職講座(10分)】

16:00～16:10 おわりの会

*低:小学校1、2年生 高:小学校3～6年生 2教室に分ける

(2030年12月時点のデータ)

跳び箱教室

参加者全員跳ばせることに成功！

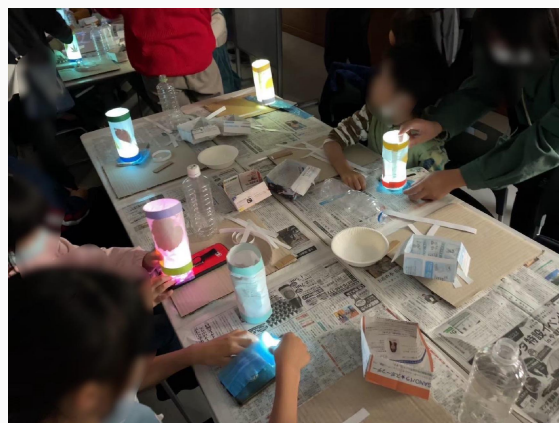
「初めて跳び箱が楽しかった」などのポジティブな感想も。



低学年工作

季節に合わせて葉っぱランタンを作成。

保護者のスマホをお借りして綺麗に完成しました！



高学年理科実験

水と油の関係について実験を通して学習。
子ども達が実験をしながらコップを夢中で眺めている姿が印象的だった。



高学年百人一首

五色百人一首の青札に挑戦！
はい！といいながら夢中になって札を取る様子が見られた。



子どもの感想

隣の子と相談をして仲良くなれたのでとてもうれしかった。百人一首めっちゃ楽しかったー♪今度も来た〜い!!

子どもの感想

助けてもらったおかげで初めて跳び箱4段が跳べました。うれしかったです。

保護者の感想

楽しい企画をありがとうございました。普段、学校での様子はこんな感じなのかなーと想像しながら見学出来て親も楽しめました。

2024年度も開催決定！

開催に向けて年間計画作成中

THANK YOU!

ありがとうございました!

20231011 educational challenge 最終発表会

信濃小中学校メイカースペースプロジェクト 成果報告

メイカースペース
MAKER SPACE

信濃小中学校メイカースペースプロジェクト教職基盤形成コース2年
22EA411F 西澤楓真
指導教員 小倉光明



プロジェクトの目的

メイカースペース
MAKER SPACE

目的

子どもたちや先生方がプログラミングやものづくりに関わって日々がより良いものとなるような機会と場を提供すること



信濃小中学校の使われなかった教室となっていたコンピュータ室をメイカースペースに改装し教員や児童が活用できるようにしている



児童による制作



児童と一緒に活動



生徒の作品を楽しむ

メイカースペースについて

メイカースペースとは？

- ICTや3Dプリンタなどの低価格化によりアメリカでのメイカムーブメントが勃興
- 米国やイギリスでは図書館や学校、公共施設にメイカースペースが設置された。
- 学習者が様々な工具や材料、テクノロジーにアクセスする共有の場



従来の何かを学ぶことを目的とした教室ではなく
好奇心から始まるものづくりで個々が学ぶ場

東北信地域では？

FABLAB NAGANO



モノコトベース(県立図書館)



(信州学び創造ラボホームページより引用)





(ミッチェルレズニック著ライフロンギンダーガーデンより引用)

クリエイティブラーニングスパイラル

ご支援の御礼



カッティングマシン2台分のご支援をいただきました



展望②

- ・ 入口としての学級活動や授業の中でのプログラミング活動のサポート
 - 6年生理科、国語の授業、特別支援学級の活動

展望①

- ・ 生徒会活動とも連携して活用の幅を広げる
 - 現在生徒会三役担当の先生と相談中

メイカースペース
ご清聴いただきありがとうございました

– Educational challenge

EduMed

最終報告



日にち：2024年2月14日(火) 13:00～

目次

- 01 活動の目的
- 02 学習支援の様子
- 03 体験創出の様子
- 04 今後について

活動の目的

療養中の子どもの 自己効力感を育む

入院中の子どもたちに対する学習支援で教育の機会均等、自己効力感の育成を目指してきました。子どもたちの自己表現力を育むワークショップも行いました。



後期の活動内容

01

学習支援

- ・ 信大附属病院での支援
- ・ 日赤病院での支援
- ・ プリント教材の配布

02

体験創出

- ・ ものづくり体験会
- ・ NMDA様との協働
- ・ 若槻養護とのメタバース交流



学習支援：実施内容

● 信大病院 高校生 1人 週2回（オンライン）

⇒ 本人の希望をもとに教科ごと担当学生を決めて実施

● 長野日赤 中学生 1人 週2回（対面）

⇒ 学校からの配布プリントを中心に相談しながら実施

● プリント教材の配布 小～高校生

⇒ 様々な教科/単元に触れられるように教材を工夫

学習支援：成果と実感

こども本人

学習機会が得られる（⇒本人が学びを求めていることに応える）
病院の外の人と出会い、「個人」として話しをする

病院側

医療では対応できない部分が支援してもらえる
普通の姿とは違った姿を見ることができる

学生

入院児という普通の講義では出会わない、子どもたちを知る
個に応じた支援、関わりがなにかを考える経験を積める

学習支援：今後に向けた課題

01

スケジュール調整

病院側/ご本人の都合に合わせた支援を行うためには団体として学生数を増やすことが必要。

02

どこまで学生が介入できるか

あくまで学生であるがだからこそできる関わり方の実践をつくっていく。

03

学生の心理的ケア

支援していたお子さんが最期を迎えることもある。
情報共有先と相談先を保証できる体制を作る。

体験創出：実施内容

- FabLabさんと共同企画
ランタンづくりのワークショップを開催
⇒ 県立こども病院（1/31）信大附属病院（2/5）で開催
- NMDA様から支援用ロボットの貸与
⇒ 支援中の使用には至らなかったが、活用を検討中
- 若槻養護学校とのメタバース交流
⇒ NMDA様にご協力いただきメタバース空間を用いて、大学生と生徒の交流を行った

体験創出：ワークショップ開催の経緯

ものづくりの体験を子どもたちに してもらえないか？

- ・入院している子どもたちに学習以外にも体験や外部の人との交流の機会を作りたい。
- ・教育学部の学生に院内学級の子どもたちを知ってもらい、教員のキャリアに役立てていく。

→以下の企画を検討

ロボットを使って信大の文化祭を探検しよう！

大学の授業に参加してみよう！など、いずれも実施に至らず



体験創出：開催までのプロセス

カッティングマシンに
決定!

01

内容の相談

3Dプリンターや、カッティングマシン、支援用ロボットKUBIなど、子どもたちに扱えそうな機材を検討し、活用法を相談しました。

02

活動の決定

作業が簡単でかつ安全であり、ワクワクする活動内容の設計をめざしました。

03

準備

備品の購入や絵柄の選定、チラシの作成などの事前準備行いました。

04

実施

1/31に県立こども病院
2/5に信大附属病院にて開催しました。
イルミネーションをかけるかや山西光寺に展示しました。

体験創出：アンケートの結果



参加者
9歳~15歳

Q 一番楽しかったところは何ですか？

- ・作り終わって光らせたとき
- ・紙を丸めるところ
- ・切ったのをはがすところ
- ・セロハンと紙をきれいに合わせてつけるところ

Q いまはまっていることはありますか？

- ・タブレット (YouTube)
- ・トランプ

実際に体験できる活動を増やしていきたい

参加者の全員から5点満中5点の
「たのしかった!」を
得られました



今後について

今年度の活動を通して

今回の活動を通して、私たちの活動を「心待ちに過ごしていた」と言ってくれる子どもたち、先生方にお会いすることができました。かかわってくださった皆様のおかげで、子どもたち・学生ともに貴重な交流の機会を創出できたと実感しております。

今後もニーズにこたえていくために、3月までの残りの期間も継続して支援を続けてまいります。

今後とも温かく見守っていただけますと幸いです。



Educational challenge2023

ありがとうございました！

メンバー：田中遼太[正] 松崎大晟[副] 宮阪徹 平山晶大 阿部遙人 (3年)
船崎陽里 田川彩音 鷲見昂哉 (2年)



新時代のものづくり技術を すべての人に広げる



成果報告と今後の展望



2024/2/14 Educational Challenge最終成果発表会

発表者：田中遼太

1

目次

- 活動目的
- 活動報告
- 成果及び課題
- 今後の展望
- 決算報告
- 終わりに

2

活動目的

【活動背景】
 私たち技術科の学生は、FabLabで様々な経験や学びができたため、より多くの人にもFabLabを知って欲しい。

実際の声
 「面白そう!」、「利用してみたい!」

【課題】

- ① FabLab長野の認知度が低いこと
- ② 工作機械の持出しが困難であり、出張の際に多額の費用が掛かるため活動範囲に制限があること

【活動目的】
 FabLab長野に設備されている工作機械を用いた活動を行うことを通して、多くの人にFabLab長野の存在知ってもらおうきっかけとすること

【実際の活動内容】

1. 自分たちが向く「出張クラフト教室」
2. 予約制による「オープンラボ」
3. コース間における「コミュニティスペース作り」

【予想される成果】

- ・活動を通じて学生の指導力、実践力が身に付くこと
- ・地域との連携によって、地域社会にある問題を発見し、貢献すること
- ・大学の活動として広報に繋がること

活動報告

中間報告までの活動

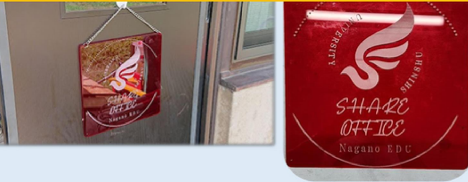
竹紙ランプシェード Cutting machine
 カuttingマシンの使い方
 カuttingマシンの竹紙をカット



KARURA 火星探査機のギア作成のサポート
 レザ-カッターでアクリル板をカット



Share office の看板作成の依頼
 レザ-カッターでアクリル板を彫刻



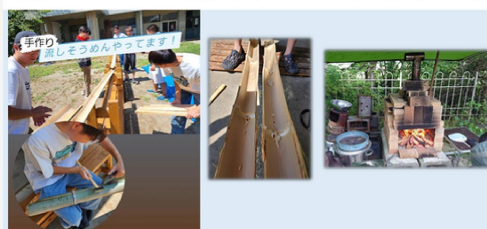
3Dプリンターで教材づくり 美術教育コース学生
 データのスライス・3Dプリンターで造形



部活動の地域移行 屋代中でワークショップ
 文化祭の準備のお手伝い



他コース・他学部との交流の場



活動報告

光芒祭 (10/21)



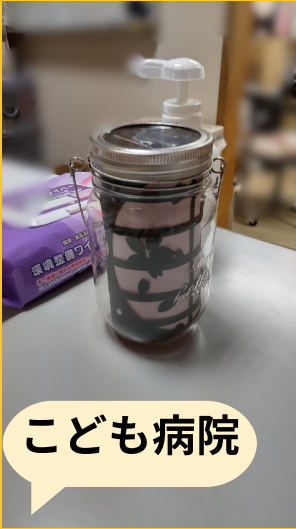
活動報告

銀嶺祭 (11/4)



活動報告

院内ワークショップ (1/31,2/5) with EduMed



7

成果及び課題

実際の数値や体験から

認知度の増加

5月時点のフォロワー
69人
↓
126人に増加



ものづくり体験をしてくれた
子ども達からは
「楽しかった」の声

しかし

知っても実際に
FabLab長野に来て
くれてはいない

ものづくり機会の
少なさ

保護者や先生からも、
感謝の言葉をもらった

カッティングマシン
以外の機械が使えない

8

今後の展望

FabLab長野を拠点としたコミュニティづくり

運営側の
スキルアップ

月1回の
ものづくりワ
ークショップ

企業や地域
との連携

より一層の
広報活動

9

決算報告

これほどのご支援いただきました。

1	4000	光芒祭出展費
2	6000	銀嶺祭出展費
3	12000	電気代
4	6966	アクリル板グリーン
5	6966	アクリル板オレンジ
6	6966	アクリル板ブルー
7	6966	アクリル板イエロー
8	550	ボランティア保険
9	2750	色画用紙
10	550	カラーセロハン×5
11	660	トレーシングペーパー×6
12	1100	電池
13	11995	PChero イルミネーションライト
合計	67469	

まことにありがとうございました。

10

終わりに

本事業を遂行するにあたり、
信州大学教育学部並びに公益社団法人信濃教育会様
(公財)栗田病院様 (株)礎建装様
(株)丸富士様 (株)徳永電機様
(株)新日本設計様 (株)黒船様
岡学園トータルデザインアカデミー様
長野県小学校校長会様 長野県中学校校長会様
ANGELUXアカデミー様 徳田節子様
多大なるご支援を賜りました。
厚く感謝申し上げます。